

薬の伝言板 ～胃・十二指腸潰瘍～



No. 242 2018年1月
丸子中央病院 薬局

胃・十二指腸潰瘍とは

通常、胃酸は食べ物を溶かすほどの強い酸ですが、胃酸が自分の胃壁を傷つけることはありません。これは胃壁の表面にある胃粘膜が胃を保護して、胃酸から胃を守っているためです。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍は、胃酸などの攻撃因子と、胃を保護する粘膜などの防御因子のバランスが崩れることで起こり、胃や十二指腸が傷つき、粘膜や組織の一部がなくなる病気です。

原因

胃潰瘍は主として胃粘膜の防御機構が弱まることで起こります。

例えば、非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の使用やピロリ菌の感染、ストレスにより防御機構が弱まり、胃粘膜に傷ができてそれが潰瘍になります。

一方、十二指腸潰瘍は胃酸の分泌が多くなり、それが十二指腸の粘膜を傷つけることで起こります。脂肪分の多い食事は胃酸の分泌を多くさせる原因の一つです。



症状

自覚症状で最も多いのがみぞおちの痛みです。

胃潰瘍の場合、食事中から食後に起こることが多く、十二指腸潰瘍の場合、空腹時、特に早期に痛むことが多いです。

胸やけ、胃もたれ、吐き気、嘔吐、食欲不振を伴うこともありますが、自覚症状が全く無い人もいます。

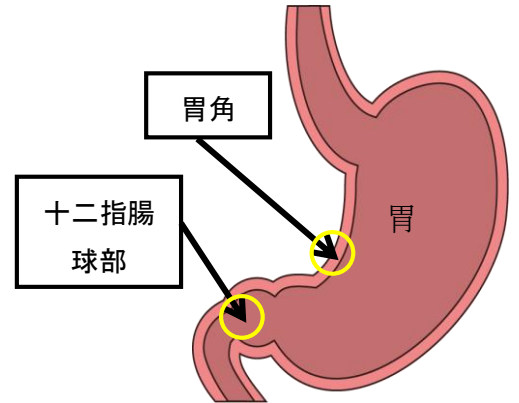
さらに病気の程度が悪くなると、その部分から出血して吐血や下血（便に血液が出ること）、穿孔（胃・十二指腸に穴があくこと）、腹膜炎などの症状が起こったりします。

また、出血をきたした場合でも痛みが無いこともあります。



胃潰瘍と十二指腸潰瘍の違い

	胃潰瘍	十二指腸潰瘍
原因	防御因子の低下	攻撃因子の増加
好発年齢	40歳以上	若年者
好発部位	胃角	十二指腸球部
痛む時間	食後	空腹時



治療



治療には、攻撃因子の抑制を目的とした攻撃因子抑制薬と、防御因子の増強を目的とした防御因子増強薬があります。

攻撃因子抑制薬	H ₂ ブロッカー	ファモチジン錠 ラフチジン錠 など	胃酸の分泌を抑える
	PPI	パリエット錠 ランソプラゾール錠 ネキシウムカプセル など	胃酸の分泌を抑える
	P-CAB	タケキャブ錠	胃酸の分泌を抑える
	制酸薬	酸化マグネシウム錠 など	胃酸を中和する
防御因子増強薬	粘膜分泌促進剤	テプレノンカプセル レバミピド錠 など	粘液の分泌を促進する
	胃保護剤	アルロイドG内用液 スクラルファート顆粒 ポラプレジンク錠 など	胃に膜を形成し保護する

非ステロイド性抗炎症薬による胃潰瘍は、痛みなどの症状を感じないままに進行し、突然、吐血や下血などを起こすことがあります。非ステロイド性抗炎症薬を飲んでいる方は定期的に検査を受けるなど、異変を感じたらすぐに医師や薬剤師にご相談ください。

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の多くは薬などで治すことができます。早めによりしっかりと治療することが大切です。

